

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園葛飾二葉幼稚園
教育理念	「自立と思いやりの心」を育てる

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	「身近な自然を保育に取り入れる」
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ～ 令和 7年 3月 31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○年間を通しての取り組み(目的) ・広い園庭を活用して、子どもたちが日常的(毎日)に身近な自然に触れ、五感を通して、感じる、気づくこと、それを土台に、友だち同士関わりを持つこと、表現すること、言葉が生まれること。 ・幼児(3. 4. 5歳児)クラス12クラス、乳児(0, 1, 2歳児)クラス全クラスが、それぞれの年齢に応じた経験を年間を通して継続的にすること。 ・身近な自然素材を教育資源として捉えること。 - 自然は命を持っている - 自然は同じものがない いびつで均一でない - 自然は日々変化し、予定通り思い通りにはいかない - 自然は正解がない - 自然は優劣がない - 自然は五感力を引き出す - 自然は美しさと思議さをもつ - 自然は生きる知恵を学べる	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・身近な自然を取り入れた保育から願う子どもの姿 - 知ることよりも感じることの大切さ(センス・オブ・ワンダー) - 感じて考えて自らやってみたくなる(主体性・自主性・行動力・意欲) - みんなちがってみんないい(多様性・認め合い) - 自由に柔軟に心遊ばせて！(想像力・創造力・発想力) - 自ら学びに向かう力(知的好奇心・探求心) - あきらめない心(集中力・課題解決能力) - 自分てまんざらでもないな！(自己肯定感・幸福感) - ありがとう！お陰さまで(感謝・共生・畏敬の念) ・予想される子どもたちの姿(学びへの姿勢) 『興味関心』＝「気づく力」、「感じる力(感じ分ける力)」、「試す力」、「自分らしく表現する力」、「自己肯定感」 ○保育教諭の姿 ・“自然について教える”→自然との出会い(出会いの創出)の機会をつくる(気づかせる環境や関わり) ・自然を日々の保育に持ち込み、日々の保育を野外に持ち出す ・日々の保育内容に、10の姿をのねらいを持って、園庭の(自然・自然素材)に触れる。 ○環境づくり ・こどもたちと花壇を作って草花を植える。 ・畑を耕したり、園庭に苗木を植える。 ・安全のためのゾーニング(柵や囲いを設ける。	  

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○草花とあそぶ(自然物の特徴の本質を知る。) ・五感で出会う、五感カードを作成して、探す 自然素材が持つ特徴、色、形(○□△▽など)を、視覚的に、言葉に出すことで意識し、見つける(発見を喜ぶ)。 ・自分たちで分類する(分類遊び)。自分なりに考えて(形や色や大きさや肌触りや匂いなど)分類する。	  
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・色のグラデーションマップ(同じ系統の色の濃淡のシールを貼った画用紙)や色合わせビンゴを使って、同じ色(例えば緑)でも、自然には様々な色(濃い緑や薄い緑)があることに気づく。(色水遊びにつながる) ・色合わせビンゴ ・葉っぱじゃんけん お気に入りの葉っぱを選んで、互いに差し出した後に、テーマのカード(細い、丸い、ギザギザ、ツルツルなど)をめぐって、勝敗を子どもたちで決める。	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・草花クレヨン いろいろな色の草花を集めて、自然物を描く。同じ色でも、花や草によって、濃淡や色の乗り(出)具合に違いに気づく。作品名を考える。	 

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・草花クッキング 子どもなりに、さまざまな自然素材の特徴を考えて、自分だけの食べ物を作る。出来上がった食べ物の名前をつける。料理のこだわりを紹介をする。	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・花の仕組みに出会う 自分で見つけた(選んだ)花を丁寧に分解してみる。自分で選んだ自然素材に愛着をもって丁寧にしかかわる。感謝の気持ちを持ちながら、花の命を無駄にしないように、花のためにもより良い作品を作る。 ・花びらアート 花びらを一枚一枚、種を一つ一つに分けて、それを自分なりにアート作品にして表現する	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・草花遊びから図鑑を作る 上記活動でできた作品をクラスの取り組みとして共有し、一つの図鑑や絵本にし、子どもたちが活動をいつでも振り替えられるようにする。さらなる興味を広げていく。	

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○雨と遊ぶ・雨との出会い ・雨音を知る 雨天に園庭に出て、雨を集める。食器などいろいろな容器を使って雨音を楽しむ。 園庭の様々な場所でしずくを見つかる。 ・マイレインコートづくり カラーポリ袋を使って、マイレインコートを作ることによって、雨の日を楽しみに待つ。家庭でも天気予報に興味をもつ。 ・雨のアート 障子紙にマーカーで色つけたり、絵をかいて、それを雨ににじませてみる。 保育室で雨の音や勢い、雨粒の様子を画用紙に表現する。	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○しずく遊び。集めた雨からしずくあそびへ ・しずく遊び 園庭のいろいろな場所で雲のありかを見つけて、スポットを使って集める。保育室で集めたしずくを、園庭で採った葉に載せてみる。 水をはじく葉とはじかない葉があることに気づく。 それぞれの特徴(理由)を考える。 ・葉っぱのしずくりレー 雨の日の探索で、自分が見つけた水をはじく葉っぱで、みんなでしずくをりレーして遊ぶ。 ・しずくの色遊び スポットで葉の上に好きな色のしずくをつけて遊ぶ。葉を揺らすことで葉の上で色のついたしずく同士が合わさって、新しい色を発見する。 合体して出来上がる色を予想して、しずくに色を付けて楽しむ。	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○にじみ絵から言葉遊び ・にじみ絵づくり 葉の上にできた色とりどりのしずくの上に障子紙をのせて、染みていく様子を楽しむ。 ・にじみ絵アートと言葉遊び でき上がったにじみ絵を画用紙に貼って作品にする。にじみ絵の形や色を見て、自分のイメージを言葉にして書き入れる。 一人一人、みんなの前で作品を発表する。	 

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○光・影と遊ぶ(自然事象) ・影遊び 自分の影、木の影、遊具の影を見つけて影の特徴を楽しむ。 季節によって変わる影を知る。 木の枝の影の動きと風の音、強さを知る。 ・光と影のシアター遊び 園庭の木や遊具に白いシートを広げて、影あそびをする。 ペットボトルや紙皿にカラーセロファンで作った作品を作って、影と光、光の色を楽しむ。 子どもたちでショートストーリーを考えて、光と影の劇を行う。	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 ○光あそびを絵本の世界とつなぐ ・絵本(光・色)を読む 色と色が混ざるとどんな色になるのか。経験をもとに想像して楽しむ。 ・ライトテーブルとカラーセロファンを使って、鮮やかな色の世界を知る。色の組み合わせの実験を楽しむ。 ・光遊び 光遊びができる場所を探して、カラーセロファンで作った作品を展示して、床や壁に映る光と影を楽しむ。 時間によって映る場所や形の変化を楽しむ。	 
	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ○土・泥・砂遊び ・感じ分ける力 たらいなどに、園庭の砂場や畑、築山など、いろいろな場所から土や砂を集めて、実際に手で触って、感触の違いに気づく。 ・性質の違いを知る ペットボトルに砂や土をそれぞれ入れ、持った時の重さや、振った時の音、上下にした時の移動する様子を見る。 さらに水を入れて、振った後、色の具合や、元に戻るまでにかかる時間に違いがあることに気づく。 ・試す力 それぞれの土や砂と水で泥団子を作ってみる。硬さや粘度の違いがあることに気づく。 ダンボールに的を作って、的宛てゲームを楽しむ。 投げやすさ、的にあたった時に的にくっつく具合を試して遊ぶ。 水の量、砂と土の混ぜ具合など、いろいろ試して見る。 一番上手な子どもが、調合方法についてみんなに教える。	  

効果検証報告書

施設名	幼保連携型認定こども園葛飾二葉幼稚園		
教育理念	「自立と思いやりの心」を育てる		
事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現		
1 事業名	身近な自然を保育に取り入れる		
2 事業概要	自然保育コーディネーターのウレシパモシリ代表の高橋京子先生をはじめ、ウレシパモシリのスタッフ3～5名をゲストティーチャーに、「身近な自然のを保育に取り入れる」をテーマに、身近な自然がいっぱいの当園の園庭をフィールドに、乳幼児クラス全15クラスに、四季折々の園庭の自然を取り入れながら、ゲストティーチャーが担任と連携しながら自然保育を行う。年間を通して子どもたちが体験できるように、月1回のゲストティーチャーの来園日のみではなく、オンラインによりミーティングも活用し研修、振り返り、課題の整理、次月の目標設定・計画立案等をミーティングにて行う。		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ウレシパモシリ ゲストティーチャー3～5名 担任、フリー教諭、主任 月1回(対面)・および適宜(オンライン)のミーティング(・保育実践・研修・会議)にて当月の保育実践での導入期間・当日・当日の事後ミーティング・翌日以降の保育へつなげる	
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 毎月1回の研修ミーティング(対面)、及び適宜オンラインでのミーティングを行うことによって、当月の振り返り、翌月の目標を明確にすることと、当日のゲストティーチャーによるかわりをより豊かにするために、導入期間として、当日のプログラムに沿った経験を積めるようにした。そのため、当日の内容に、より親近感をもって体験することができ、より興味関心を引き出すことができた。 その日の体験に終わらないように、年間を通してのねらいを持ち、他クラスの活動も取り入れて、一年を通して様々な身近な自然を保育に取り入れ、子どもたちの経験値を広げることができた。	
計画時	4 事業のねらい	1つとして同じものがない自然が持つ多様な存在が、子どもたちの五感を揺り動かし、豊かな感受性を育み、興味関心(知的好奇心)を抱くことへとつながっていきます。子どもたちは様々な発見(気づき)からそこに深く関わり、そこには『対話的で深い学び』が生まれます。また、子どもたち一人ひとりの気づきからは、自然と同様に、1つとして同じものがない個性豊かで優劣の無い作品が生まれます。『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない』。(「センス・オブ・ワンダー」)この言葉は、幼児期にとって、とても大切な言葉です。身近な自然を取り入れた保育の中にある教育的普遍的な価値を教職員皆で再確認し、二葉幼稚園の保育教育の柱となることを目指します。	
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 身近な自然が持つ多様性に触れることで、子どもたちの五感により敏感になり、さまざまな興味関心を引き出すことができた。それと同時に、自然素材の持つ多様性が表現の多様性を生み、より豊かな言葉を引き出し、より多様な人間環境を気づきかけともなった。画一的な教材とは違い、多様な作品が生まれることによって、優劣がなく、自己肯定感にもつながっている。 自然が持つ多面性が、子どもたちのなぜ? どうして? の心育て、深く関わる経験を生んでいる。更に、子どもが感じて主体的に考えて行動できたことで、それを引き出すための保育環境(モノ・コト・ヒト)を保育教諭が主体的に創造し、「保育って楽しい!」と思える様なきっかけとなった。	

5 取組の内容		計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等
		身近な自然がテーマなので、1年を通して、その時期その時期に合った内身近なテーマを設定した。主なテーマは○草花 ○雨・水 ○落ち葉 ○光・風 ○土・砂と、園庭にある身近な自然素材を利用した。それによって、ゲストティーチャーとともに体験した活動を、日々の園生活の中で、年間を通して楽しめるようにした。
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等
		自然の多様性・多面性に興味を持ち、自ら関わることで、主体的な活動となり、遊びは学びにつながっていった。また、いくつかのテーマをそれぞれの学年やクラスが体験することで、他クラスの子どもも交わる自由活動においても、活動や遊び、体験が共有できた。とくに縦割りの活動では、5歳児が3歳児などに積極的に関わって、体験の共有を図ることもできた。

計画時	6 環境構成	昨年度のねらい(保育教諭自身が、園庭の環境を知り、身近な自然の変化や違いに気づくこと、興味を持つこと)を踏まえて、今年度は、具体的な実践例を研修内容とし、そのため月1回の研修会、翌月の保育計画の立案会議を行い、季節(12か月)ごとにより多様な体験を子どもたちに提供できるようにした。さらにオンラインによるミーティング(自然保育コーディネーターとの)で、日案について適宜意見交換をした。 身近な自然がたくさんある園庭で、コーナー環境を整えることで、子ども一人一人の興味関心を広げられるよう、子どもたちが自ら自然との関わり合いを選択できるようにし、主体的な活動へとつながる工夫を行った。 養護的な配慮として、たとえばアジサイの毒性を事前に把握したり、どんぐりの誤飲、枝の危険性を考慮した環境設定を考えた。 ・屋外用保育用テーブル4台・屋外用保育用ベンチ8台、・筆、調理器具(フライパン・鍋・まな板・やかん)、紙コップ、画用紙、絵具、ビニールシート、スポイト、電子顕微鏡、鏡、小枝、丸太輪切り、葉、落ち葉、どんぐり、土、砂、砂利など。 その他、子どもたちが植え育てる草花、樹木を用意した。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等
	6についての効果・検証	昨年に引き続き、「保育室で行っている保育を園庭へ」、「園庭でおこなっている遊びを保育室へ」をスローガンに、晴れの日も風の強い日も、雨の日も、天候に関わらず、年間を通して実践することができた。 特に普段保育室で行っていることを園庭で行うため、テーブルやいすなど、できるだけ保育室の環境に近づけることで、普段の活動をスムーズに行い、園庭にある自然素材を教材として使用した。そのことによって普段の保育に今まで以上に多様性が生まれた。 養護的配慮では、事前に職員間で自然素材のリスクを確認することができた。

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 子どもたちがそれぞれいろいろなこと(自然物・自然事象)に興味関心を抱き、自ら関わろうとし、自然がもつ多様性が、さらに終わりのない興味関心につながる。そこには、認定子ども園教育保育要領の五領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)や、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(省略)に深く関わり、それぞれの領域・姿が多様な形で子どもたちが経験できると考える。 加えて、自然物を介して、クラスの友だちで、手作り絵本や手作り図鑑などを作成するなど、協同性(学びの芽生え)が育まれると考える。
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 身近な自然が持つ多様性が、多様な人間関係を生み、その子ども自身が感じたままの多様な言葉が生まれ、優劣のない多様な作品(表現)が出来上がる。自然を感じることは五感を刺激することであり、子どもたちの探求心が、主体的な活動へとつながっていった。興味関心は、例えば、花であれば、色彩、花びらの数・形・多きさといった数や大小・形。匂い、感触(ザラザラやツルツルなど、その物事の本質の理解へとつながっていった。違い、似ているところ、さらにはそれらが存在する場所への興味関心に広がったり、そこから名前に興味を持ったりしていった。 天候に興味関心を持ったクラスでは、毎日の天候を、子どもたちが順番に絵日記のように記録したり、その様子を絵だけでなく、自然物をつかって表現したり、想像して物語にしたり、数冊の本を作成し、自然遊びを通して、協同・共同性を育むことができた。
8 効果検証 総括	子どもたちは、園で過ごすにあたって、さまざまな“環境”を通して「あそび＝まなび」します。その“環境”とは、保育室(園舎)や園庭に始まって、教材、そして保育教諭のかかわり方まで。“環境”を通して、子どもたちの行動や気づき、経験する(してほしい)内容など、いろいろなことを予想しながら、先生は、日々“環境”について考えています。 二葉幼稚園が保育の大きなテーマとしている『身近な自然を保育に取り入れる!』では、一つとして同じもののない自然(自然素材)が持つ多様な存在が、子どもたちの五感を揺り動かし、豊かな感受性を育み、興味関心(知的好奇心)を抱くことへとつながっていきました。 子どもたちは、様々な発見(気づき)から、それに深く関わり、そこには『対話的で深い学び』が生まれます。また、子どもたち一人一人の気づきからは、自然と同様に、一つとして同じもののない個性豊で“優劣のない作品”が生まれます。 『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない』。この言葉は、アメリカのベストセラー作家であり海洋生物学者でもあったレイチェル・カーソンさんの言葉です。 多様な存在が、子どもたちの興味関心を広げ、その遊び(生活)には、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」、さらにそれらを土台とした協同性、協働性へとつながったと考える。 まさに子どもたちが、自然を通して学び、感じ、体験したことが、小学校以降の学びへとつながって行くと考えます。